



アプリケーション・コントロール 設定手順書



ウォッチガード・テクノロジー・ジャパン株式会社

2014年8月 Rev-01

目次

はじめに	3
Application Control アクセス制御設定	4
アプリケーション単体のアクセス制御	4
カテゴリ毎のアクセス制御	8
Application Control のポリシーへの適用	9
Application Control を有効にしたポリシーのスケジュール	10
おわりに	12

2012 年 3 月 初版

2014 年 8 月 第二版

はじめに

この度はウォッチガード製品を選定していただきありがとうございます。

本書は、WatchGuard XTM が持つ強力な機能の一つである、アプリケーション・コントロールの設定方法を解説するものです。

本手順書は、Fireware XTM OS v11.5.1 をベースとしたものです。

Application Control アクセス制御設定

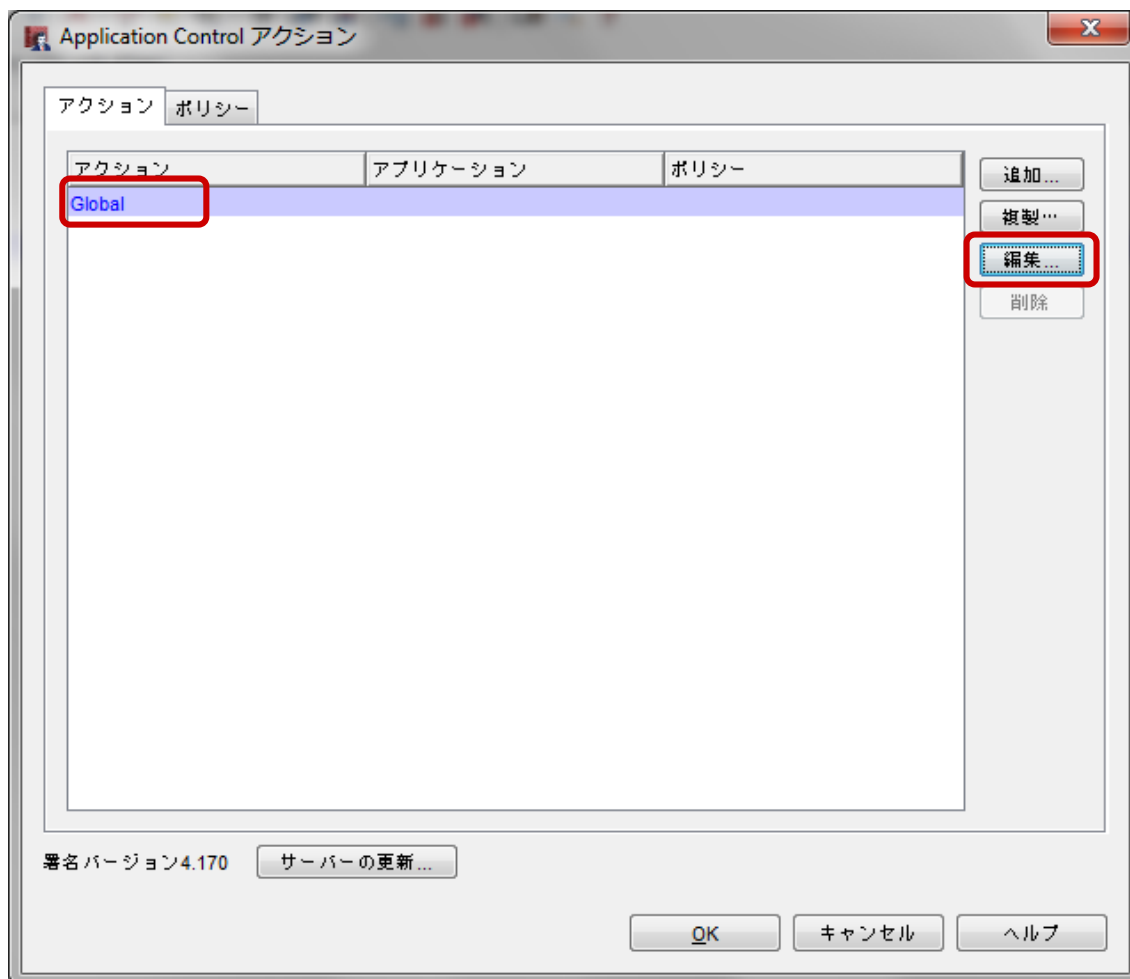
Application Control はまず、アプリケーション (Web、P2P、IM など) 毎に許可・禁止設定をするための定義が必要となります (デフォルトは全て許可)。

定義が完了したら、各ポリシーに対して Application Control の有効/無効設定して頂きます。

尚、アプリケーションによって制御項目が異なるのでご注意ください。

アプリケーション単体のアクセス制御

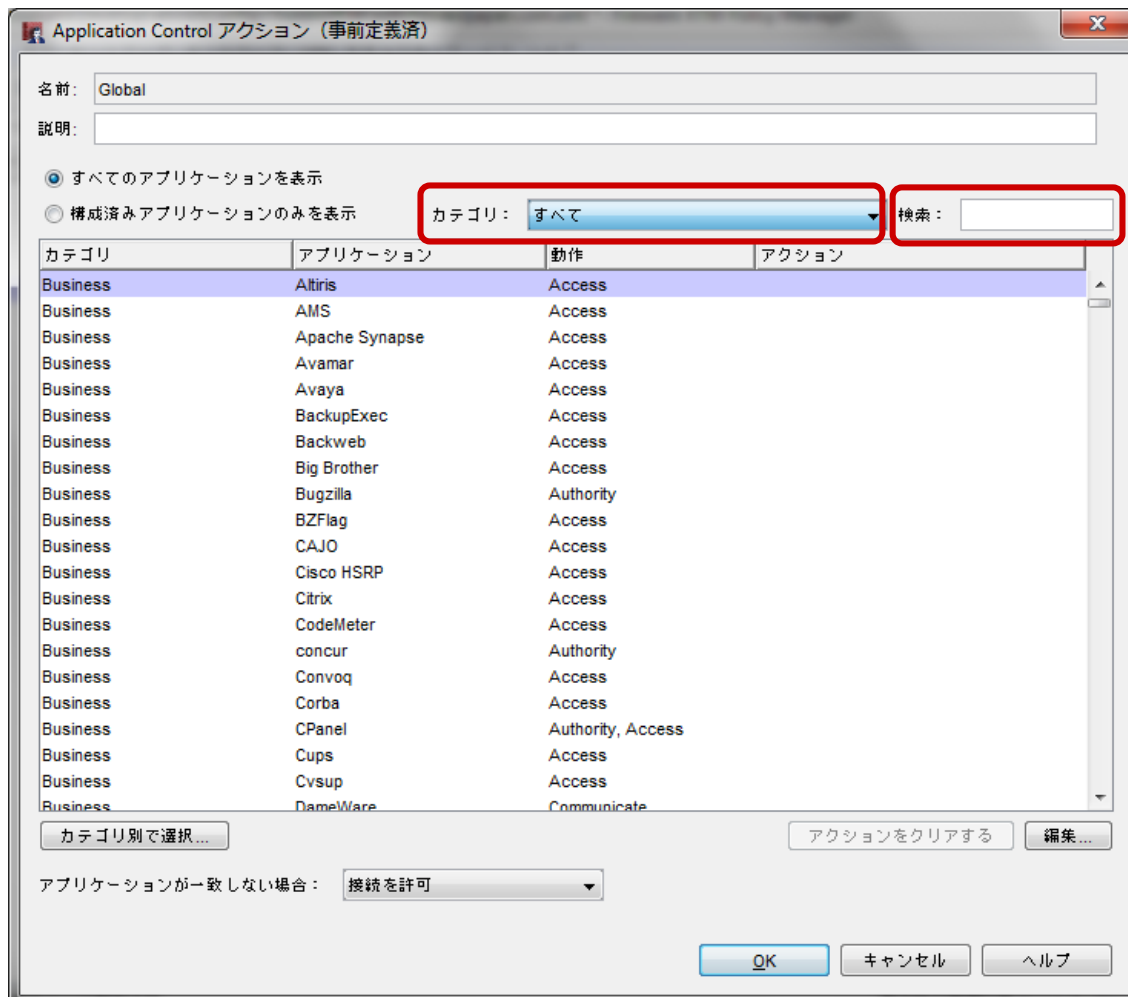
1. Policy Manager の[セキュリティサービス] ⇒ [Application Control] 画面を開きます。
2. 一覧にあるデフォルト(Global)を選択して画面右側にある“編集”で修正画面を開きます。



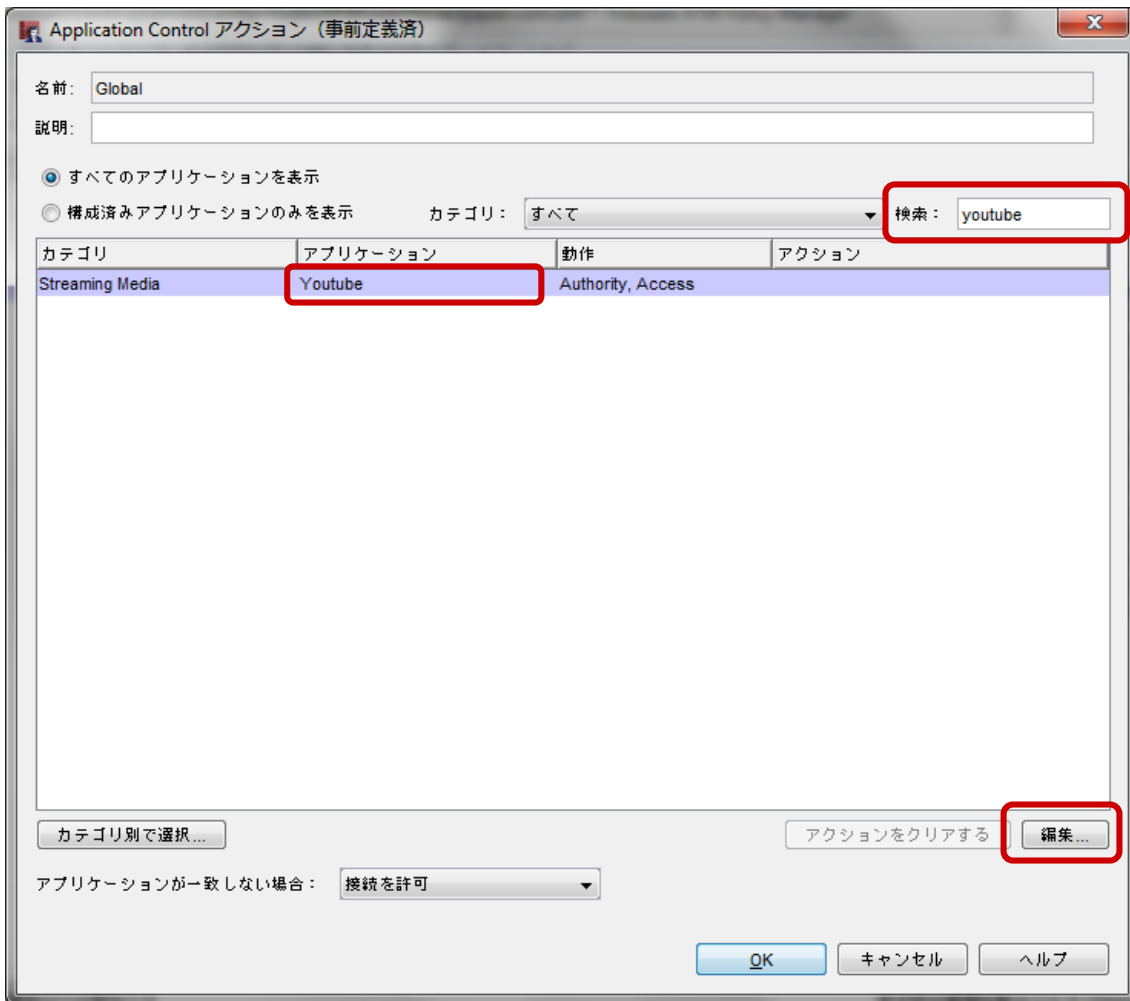
3. Application Control でサポートしているアプリケーション一覧が表示されます。

アクセス制御したいアプリケーションを探す方法としては、下記の 3 種類があります。

- スクロールダウンして探す
- カテゴリを選択して、カテゴリ内から探す
- 検索機能を使って検索する

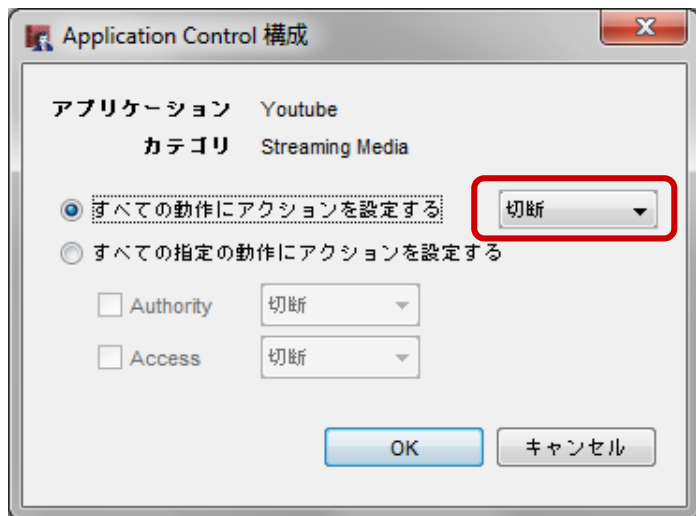


4. 例として、“YouTube”を制御したい場合、検索機能を使って“Youtube”にて検索すると一覧に表示されます。一覧に表示された“Youtube”をダブルクリックまたは画面右下にある“編集”を選択することで詳細な制御項目画面が表示されます。



5. "Youtube"(例)は、2つの制御項目があります。"Access"(アクセス)と"Authority"(認証)の2項目があります。

全体をブロックしたい場合は下記の画面通りにしてください。



プルダウンメニューで"切断"を指定します。

"Authority"(認証)のみ禁止にしたい場合は、下記の画面通りにして下さい。

下記の通りにすることで、閲覧が可能になるが"Youtube"への動画投稿が禁止となります

(理由:YouTube はログイン認証をしないと動画投稿が出来ないため)。



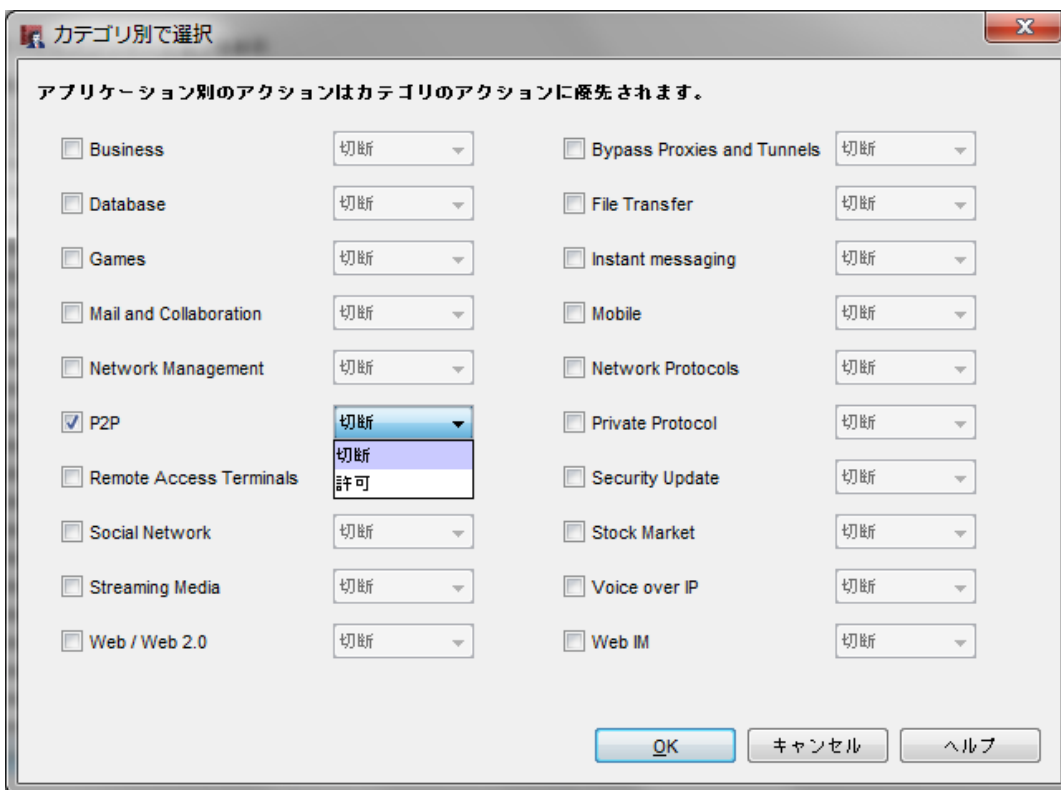
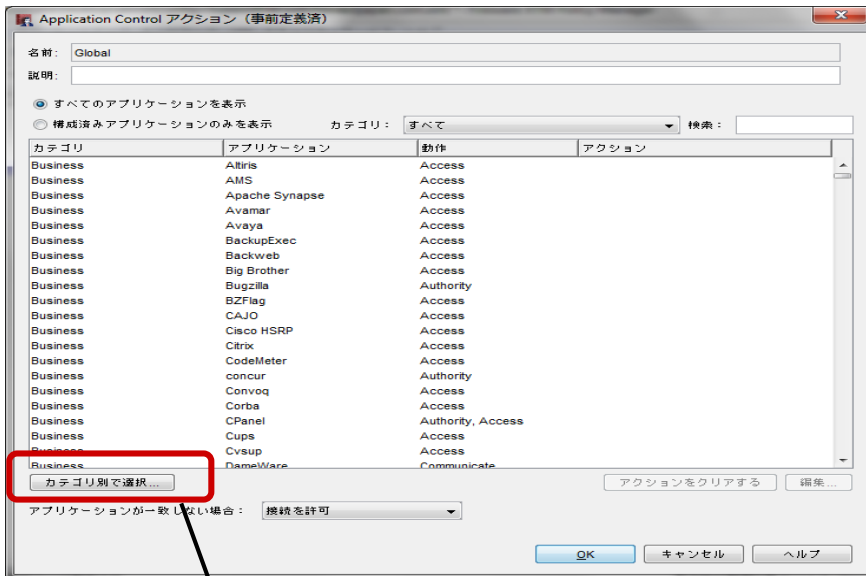
Authority(認証)を禁止にして Access(アクセス)を許可にします。

※制御項目はアプリケーションによる異なるのでご注意ください。

カテゴリ毎のアクセス制御

個別アプリケーション毎の制御ではなく、カテゴリ毎に大きい枠での制御も可能です。

カテゴリ別で選択 ボタンをクリックします。



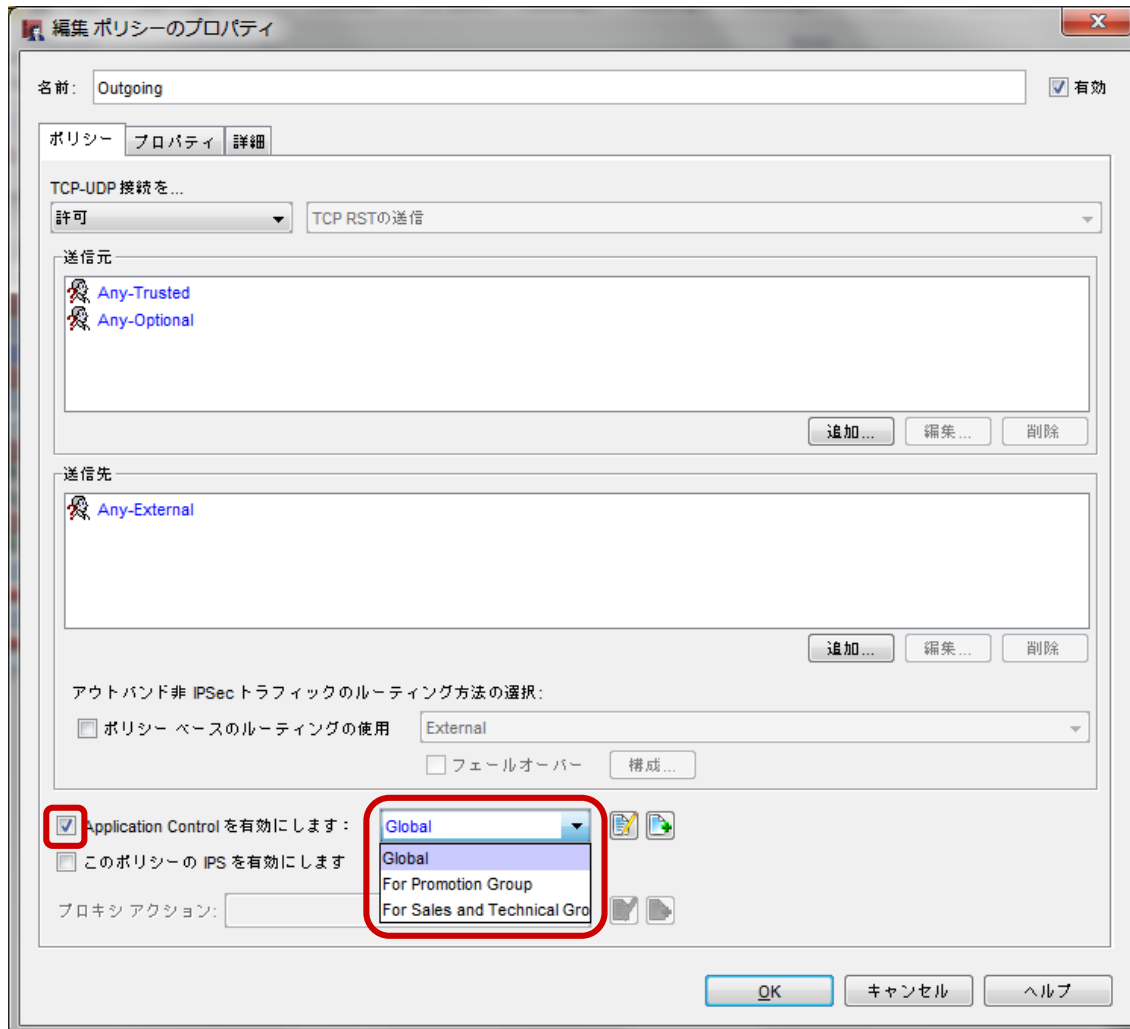
制御したいカテゴリにチェックを入れて、“切断”を指定することにより該当するカテゴリ内に含まれるアプリケーションを全てアクセス禁止にすることが可能です。

ただし、細かい制御はできません。カテゴリによる制御は許可か禁止のみとなります。細かい制御に関してはアプリケーション毎に設定して頂く必要があります。

Application Control のポリシーへの適用

最終的に各ポリシーに対して Application Control を有効にしなければアクセス制御はされません。当手順書では、“Outgoing”ルール(ポリシー)に対して Application Control を有効にする方法をお知らせします。

1. Policy Manager 上に登録されている“Outgoing”ルールのプロパティを開いてください。



Application Control で作成したルールをプルダウンメニューで選択します。ここで指定したルールがファイアウォールポリシーに対して適用されます。

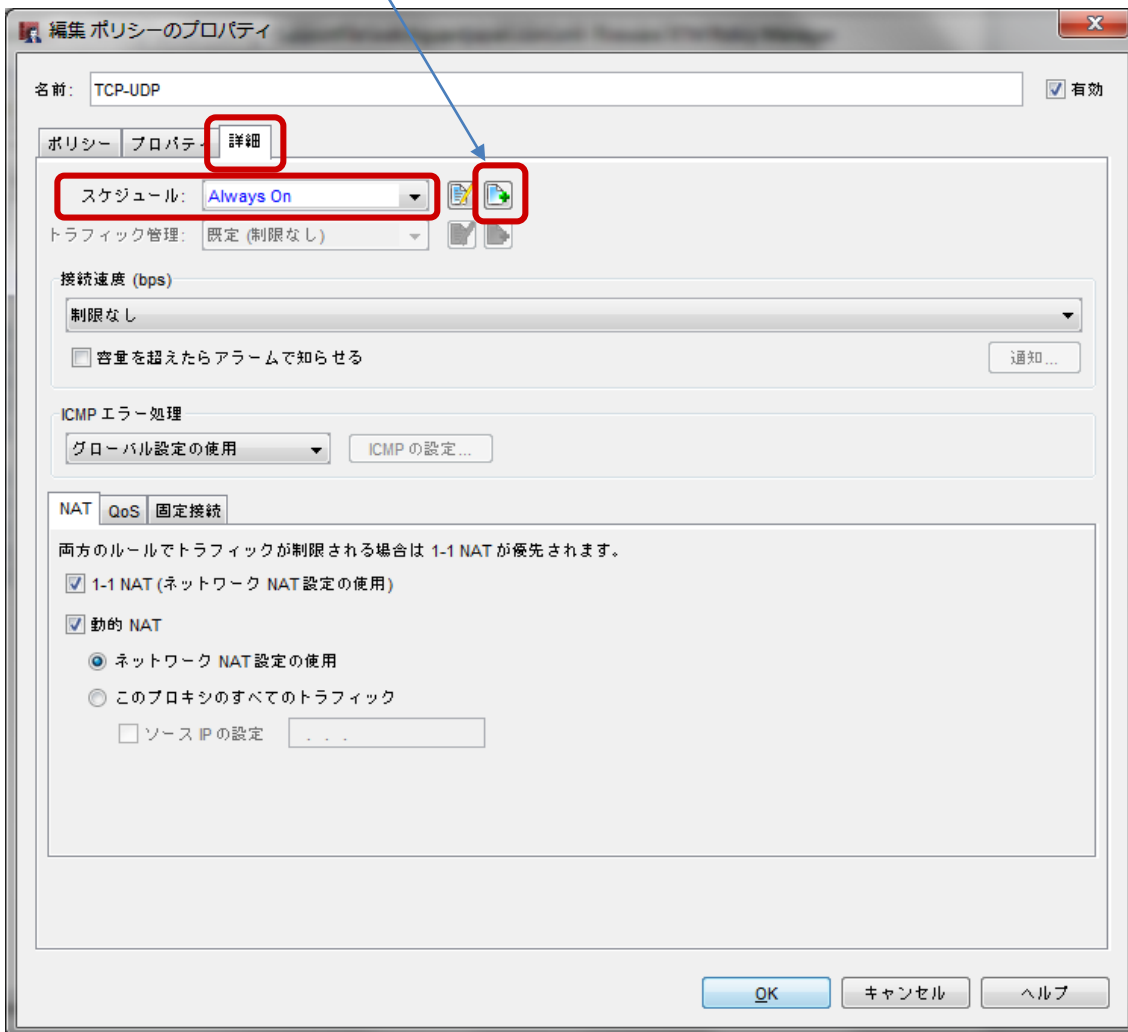
※ 送信元を限定することにより、送信元別(部署/PC 単位)に Application Control のルールを分けて適用することが可能です。

Application Control を有効にしたポリシーのスケジュール

スケジュールはポリシーのオプション機能です。ポリシーに対してスケジュール設定をすることで、Application Control が有効となっているポリシーを時間帯によって有効／無効にすることが可能です。

1. Policy Manager で Application Control が有効となっているポリシーをダブルクリックしてプロパティ画面を開きます。[詳細]タブを開いてください。

同画面に“スケジュール”の設定項目欄があり標準では“Always On(常に有効)”になっています。スケジュール設定をしたい場合には編集ボタンをクリックして下さい。



2. Application Control を有効にしたポリシーの有効時間を選択します。最小で 15 分単位、最大で 1 時間単位で指定が可能です。

複製 スケジュール X

名前: For Application Control

説明:

時間	日	月	火	水	木	金	土
00:00							
01:00							
02:00							
03:00							
04:00							
05:00							
06:00							
07:00							
08:00							
09:00							
10:00							
11:00							
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							

モード: 時間

: 稼働時間
 : 非稼働時間

OK キャンセル ヘルプ

おわりに

アプリケーション設定手順書をご活用いただき、ありがとうございます。

このガイドを通して、ウォッチガード製品により、アプリケーションの社内利用の制御がいかに容易か、実感していただけたと思います。

WatchGuard XTM が御社のセキュリティにお役に立てれば幸いです。